

昭和二十二年六月十二日（第三種郵便物認可）  
平成三十一年四月十三日発行（毎月十四日発行）  
定価 五〇〇円

第931号

第七十五巻

5  
月号

高 知 道 會  
龍 跳 書

竹村子雀書

古墨輕磨滿几香  
硯池新浴照人光

古墨輕磨滿几香  
硯池新浴照人光

蘭亭叙

東晉

王羲之

永和九年歲在癸丑暮春之初會

于會稽山陰之蘭亭脩禊事

也。羣賢畢，至少長流集此地。

有峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右引以爲流觴曲水

永和九年。歲在癸丑。暮春之初。會于會稽山陰之蘭亭。脩禊事也。羣賢畢至。少長咸集。此地有崇山峻嶺。茂林脩竹。又有清流激湍。映帶左右。引以為流觴曲水。

蘭亭叙 東晋 王羲之

蘭亭叙は、王羲之の書の中でも最も有名なもののだが、その真跡は唐の太宗（五九七—六四九）の墓に埋められたといわれ、数多くのコピーだけが伝えられている。

その後、定武（河北省）の地で一刻石が発見され推断されたが、いまだに実相は明らかでない。しかし、書道史上屈指の劇跡といわれ、書聖の最高傑作として歴代学書者の絶対的な尊崇を独占してきたと云われている。

以上概略ですが、これから皆さんと一緒に学習したいと思います。

前田秀華書

樂事每從忙裏過。好花偏向雨中開

乐中無客惟風月  
好花偏向雨中開

七律句

岩河里華書

門無客至惟風月案有書存但老莊

門無客至惟風月案有書存但老莊

梅川桂龍書

青松日色冷

にうしょく  
せいしょう  
青松に冷やかなり

梅 川 桂 龍 書

潭 曲 薄 暮 空

薄暮

空潭の曲

福 原 曉 雲 書

蓮  
上  
紅  
并  
水  
中  
開  
紅  
蓮

蓮は水上に開いて紅なり

出間桂堂臨

年歲和九

美學  
勝竹  
鶴時  
流  
青山  
曉風  
晴  
月

中城知抄臨

知抄  
東子元  
之  
鶴  
曉

奧堂皓月臨

弘仁三年十二月十四日於  
高雄山寺受胎藏

癸卯年秋月

田村和子臨

右職上計掾史仍辟  
涼州常爲治中  
和子临

司空府讚曰 魏魏大  
聖赫赫彌章相之 美仁

寧乃之以於清峻  
莫如涼之妙於  
或乃絳紗布於深泉  
而仰望於明月

寐簡便起故巢以差  
余居歲詰公載酒不

卷之九

西山極山

靜夜夢美人

須藤玲華

辻本里仙

山脇佳月 武内美仁

板走九關故日行至  
未半六十里言既  
整流俱生愛河慧  
羽一飛便超昇

為此百處春年寂寥  
枉賦詩主之亭處

卷之九

近來已無家國之可  
以安身取爾去而

賢卑至少長咸集此  
地有峻領茂林脩

卷之九

岩村 祥

廣田香翠

山下枝雪

中城康華

大原桂園

## 条幅当選作品 北代碧山 選評

### ★天位

武内美仁君||筆力内に満ち、余裕のある臨。

山脇佳月君||筆はよく走っているが、不用意な筆散見する。要注意。

辻本里仙君||流れよく臨しているが、もう少しおちついて息長く

臨すると尚、向上すると思う。

須藤玲華君||章法巧みに淡墨をうまく活用し妙。

西山極山君||大分、手馴れた臨書になってきた。頑張れ！

### ★地位

大原桂園君||呼吸長く臨しているが、いまひとつ鋒の開きがほしい。

中城康華君||無理に形だけを臨しても不自然になる。例えば「一」

の字の如し。

山下枝雪君||手馴れた書だが、いまひとつ筆力がほしい。

### ★人位

廣田香翠君||この臨、熱意は充分に感するが、少し細部に気配りして全体を律して下さい。

岩村 祥君||まじめによく臨しています。この調子で頑張って下さい。

作品は毎月20日必着  
(必ず守って下さい)

▷ 次回審査会 ◇

4月の審査は21日(日曜)午前9時30分に開始します。審査会場は**高知城ホール**です。  
※審査終了後、龍跳展下見会を行います。その後総務会の予定です。

緑の街  
樹の街

中學一年課題 廣末幽念書

# 紀世 行界

の 羊  
筆 毛

小学五年課題 山下枝雪書

取書

りさき

風  
采  
よ

小学三年課題 大原桂園書

水  
古  
白

おと

小学一年・ようち・ほいく課題

山本瑞草書

三  
二  
一

学 校 名	野 菜 担 当 の お 父 さ ん が 切 つ
六 年	た じ や が い も や に ん じ ん は
級 段	や つ ぱ り 不 格 好 だ つ た け ど
氏 名	し ん が 残 ら な い よ う に し つ か
	か り に こ ん だ 。 ふ う ん と た だ よ う 。

学校名	新聞には、さまざまな種類
五年	のニュースがのつてあります。
級段	新聞を読むと、社会で起きて
氏名	いることへの興味が広がります。 読み方を身につけ、生活 や学習の中で生かしますよ。

学校名	かたをすほめてつ立つていた松井さんは、
四年	を思いついたのか、急いで車にもどりました。
級段	転席から取り出したのは運
氏名	あの夏みかんです。

野ねずみたちは、にこ  
にこうなずいて、目を開  
けたりとじたりしながら、  
ずうつと、とくべつメニ  
ユ一の雨の音につつまれ  
ていたのでした。

がっこう	い	は	春	み	や
二 ねん	い	い	風	ん	、
きゅ う ん なまえ	は	に	は	な	。
	き	い	む	お	日
	ま	き	ね	ま	。
	し	き	ど	お	や
	た	を	い	つ	、
	。	す			



がっこう				
ほん	たか	こ	さ	
きゅう うん	のけ	い	ん	ほ
なまえ	し	ぬ	と	み
	い	こ	ち	
	な			

同王徵君洞庭有懷

張謂

八月洞庭秋

八月 洞庭の秋

瀟湘水北流

瀟湘しょうしょう 水 北へ流る

還家萬里夢

家に還かえる万里の夢

爲客五更愁

客と為なる五更の愁うれい

不用開書帙

用いず書帙しょちつを開くを

偏宜上酒樓

偏宜ひとに宜よろし 酒樓しゅろうに上のぼるに

故人京洛滿

故人こじん 京洛けいらくに満みつ

何日復同遊

何れの日か 復また同遊どうゆうせん

八月になり洞庭湖も秋を迎えている。

瀟湘の川の水は北に向かつて流れゆく。

故郷は万里の彼方にあって、夢の中だけで帰ることが

できる。しかし明け方に目が覚めると、旅人の身であることを

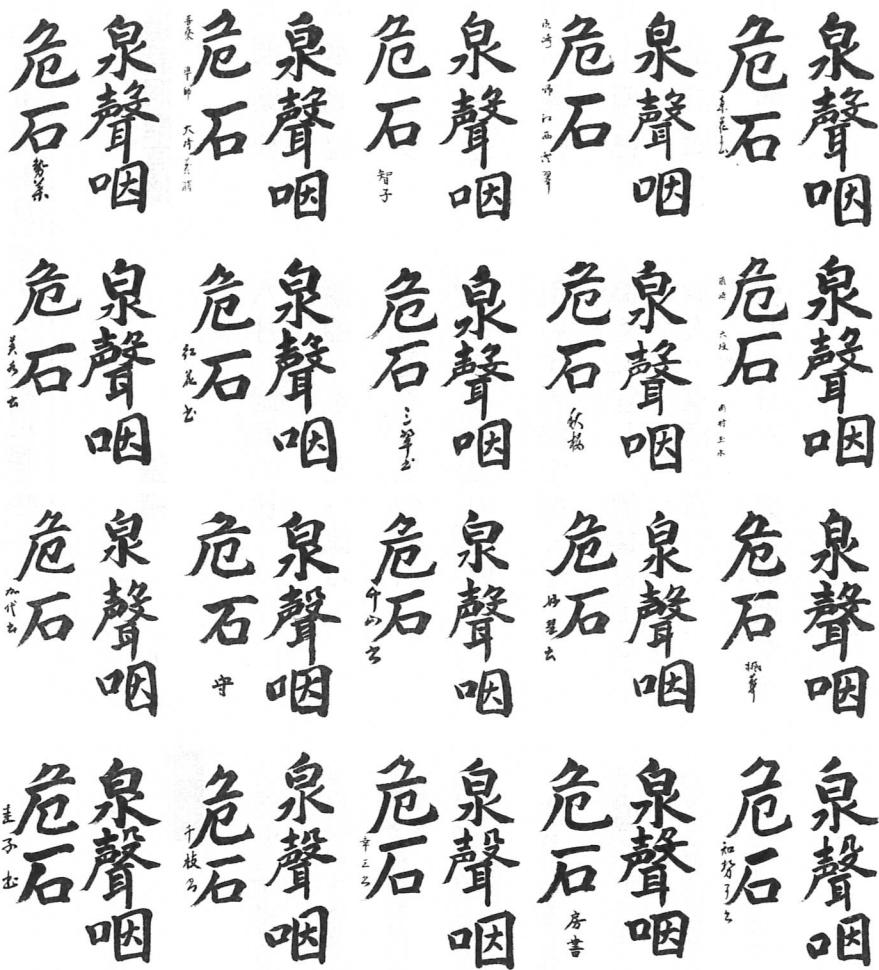
痛感しもの思いにふけつてしまつ。

こんな時には書物を読むなど、無用なことだ。

旧友は故郷の洛陽らわうに大勢いるが、

いつになつたまゝ、いつしよじよに遊ぶことができるのであるた  
うか。

通訳



(一段目) 出間桂堂 選評  
惠花君（一）一字一字丁寧で線も強。澄翠君（二）温和に見えても線は深い。

智子君（三）平常心で書かれ、品格のある字だ。

花梢君（四）字々しつかりとして、バランスも良い。

(二段目) 森本瓊象 選評  
玉水君（一）朴な線質で丁寧な書き方。落款に工夫を。

秋桜君（二）線は細いが強い。線の変化を研究しよう。

三翠君（三）作品に派手さはないが、よくまとめている。

紅花君（四）楷書の基本はできてきた。更にご加勉を。

美水君（五）墨量豊かに落着いた作。これに強い線を加えよう。

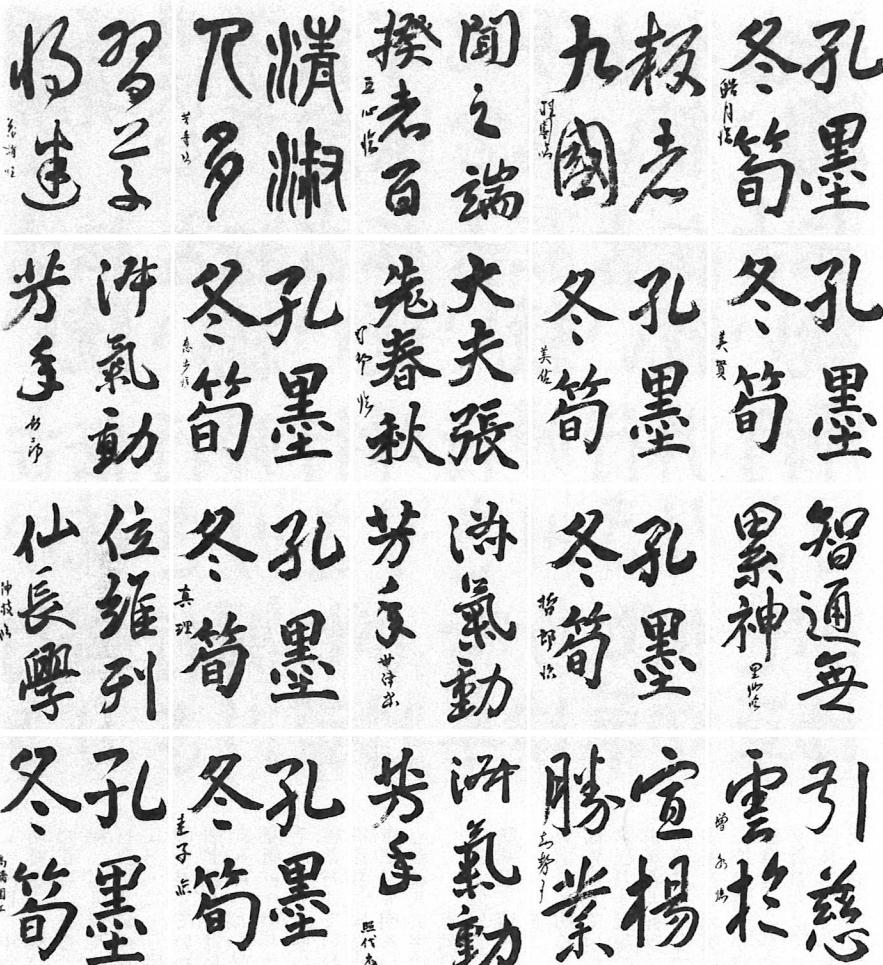
(三段目) 梅川桂龍 選評  
竹山君（一）右に同じ。益々の御加勉を。楓華君（二）丁寧に書し力強い。軽やかさが欲しい。

妙慧君（三）筆よく立てて厳しい線、佳作。

加代君（四）筆圧の変化、構成共に達者。(四段目) 前田秀華 選評  
知勢子君（一）清澄な筆致で佳。房君（二）線質に味わいあり。

幸三君（三）素直な運筆で明るい。千枝君（四）淡々として素朴。二行目を少し上にあげれば更に佳。

圭子君（五）暢びやかで線に温か味あり。



(一段目)  
皓月君||着実な筆捌で練達の書。  
桂園君||潤渴を入れ大胆に書した作。  
亘心君||争座位の臨にしては迫力不足、文字数を少なくて大胆に書してほしい。

(二段目)  
大黒仙雲||選評  
美賀君||楷書の用筆をよく心得て線が澄んで立派。

芳香君||沈着にして重厚、古典名を記すこと。

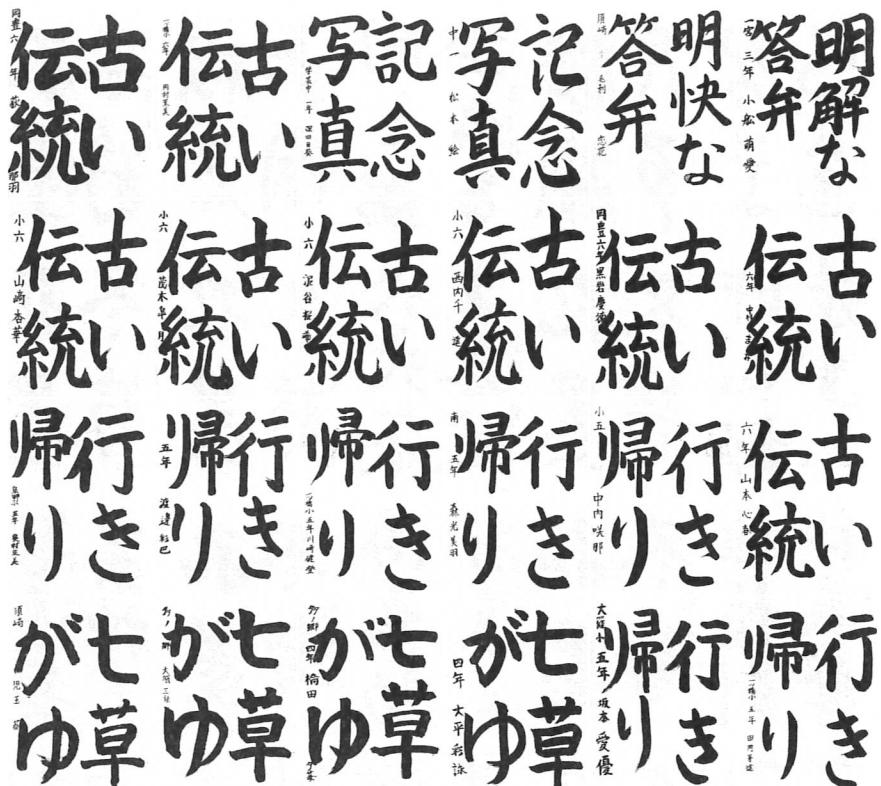
花梢君||軽快な運筆で筆勢あり。

桂園君||原典の特色をとらえて情感表現二郎君||動きはとらえているが、恵歩君||線に迷いはないがもう少し  
どつしりと。ないがもう少し  
彰二郎君||動きはとらえているが、もう少しリズムをとらえて運筆すること。

里仙君||流れよく一幅としてまとめて運筆する。

(三段目)  
岡崎綠水||選評  
哲郎君||練れた線で作品に食い込み世津君||筆使いが丁寧で落ち着きの真理子君||まじめさの伝わる臨、この調子で。仲枝君||伸び／＼として温かみのある臨。

(四段目)  
増水君||手慣れた作、廣末幽念||選評  
知勢子君||大胆にして迫力あり。  
照代君||余白明るく流れ良し。  
圭子君||余ちつきあり好感のもてる作。



(一段目) 中学部

野島桂山

選評

萌愛君||力強い作品。

恋花君||氣らくに書け、よくまとめています。

絵君||見ていて飽きないすばらしい作品。

日葵君||真面目さが伝わるすばらしい作品。

(二・三段目) 小学六年 岡林邦心

選評

菜美君||ていねいで良い。

那羽君||字は良いが紙面に対し大きすぎます。

まみ君||よくまとめている。

慶徳君||ゆったりとして良い。

千遙君||筆使いが良い。

桜希君||ていねいで良い。

臯月君||伸び伸びとして良い。

杏華君||明るい作品です。

心春君||文字のまとまりは良いが少しかたい。「伝」の

五画目の接筆が正しくて良い。

(三・四段目) 小学五年 佐々木港花

選評

咲那君||落ちついて書いています。筆使いも正しいです。

美羽君||明るく元気です。

健登君||ていねいに書かれています。

彩巴君||元気です。

來美君||伸び〜と書いています。

芽途君||落ちついて良い。

愛優君||元気に伸び〜と書いています。

(四段目) 小学四年 西山極山

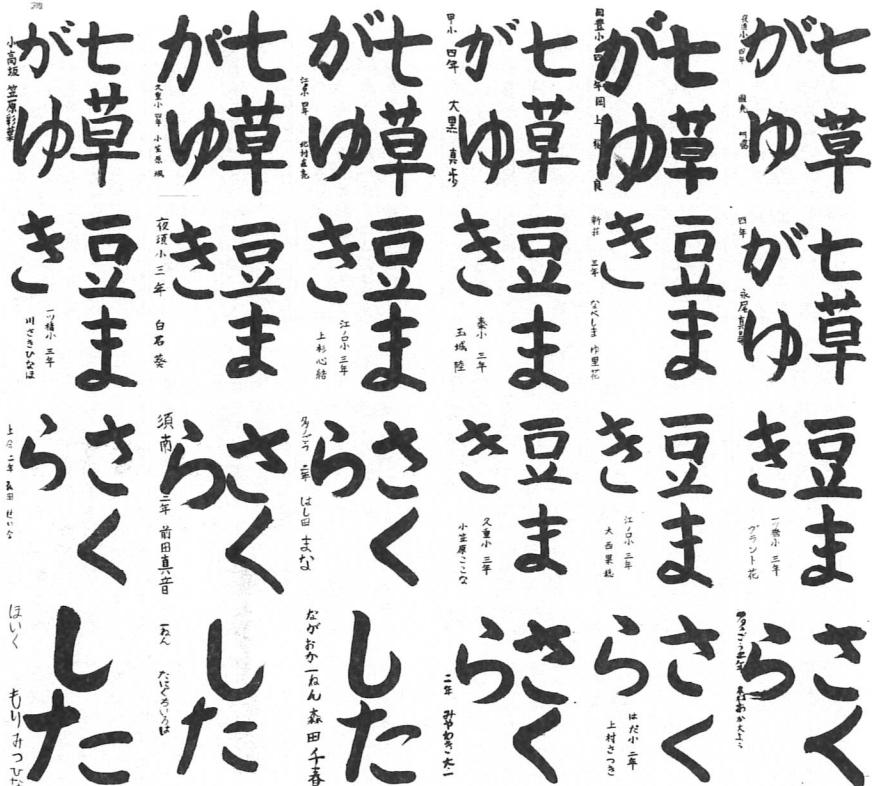
選評

彩詠君||のびやかに書けています。名前もじょうず。

夕苺君||よくまとまっています。

三佳君||ていねいに書けています。

葵君||明るいよいに書けています。



明璃君||まじめさが伝わります。

桜良君||元気よくどうどうと書けています。  
真歩君||名前と共によくまとまっています。

直亮君||文字の大きさ、ちょうどよいです。

颯君||四文字よくまとまっています。  
彩葉君||ていねいに書けていますね。

真尋君||さわやかで明るい作品。上の部分がすこしあ  
いたね。

(二・三段目) 小学三年

深瀬綠堂 漢評

祐里花君||やわらかく明るく書けています。

陸君||ていねいによくまとめています。  
心結君||良くまとめてまじめな作です。

葵君||動きがあつて明るい。

陽菜穂君||最後までていねいに書けて良い。

花君||よく整っています。

果穂君||元気いっぱいに書けました。  
恋菜君||はじめて書けています。

(三・四段目) 小学二年

大八木洋女 漢評

まな君||ちからづよくかけました。  
真音君||元気いっぱいかけました。

せいな君||あかるくかけています。  
太よう君||しつかりかけています。

彩月君||ていねいにかけています。

太一君||まとまりよくかけました。  
(四段目) 小学一年

ようちついてていねいにかけました。  
千春君||おちついてていねいにかけました。

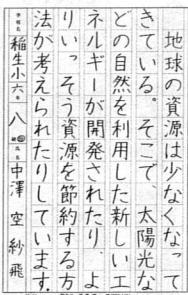
いろは君||のびのびとかけました。  
ひな君||元氣いつぱいかけました。

奥堂皓月

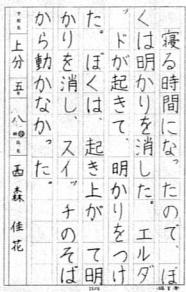
選評

# 硬筆優秀作品

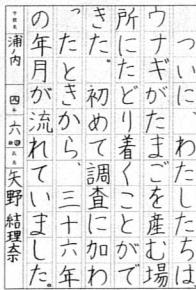
山根 未来  
中澤空紗飛



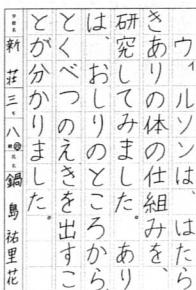
森光美羽  
西森佳花



大平 彩詠  
矢野結理奈



永尾 真尋  
鍋島祐里花



地球の資源は少なくなつてきている。そこで、太陽光などの自然を利用した新しいエネルギーが開発されたり、よりいっそく資源を節約する方法が考えられたりして、長岡六特待品 井口愛心

地球の資源は少なくなつてきている。そこで、太陽光などの自然を利用した新しいエネルギーが開発されたり、よりいっそく資源を節約する方法が考えられたりして、多郷六四特待品 山崎杏華

寝る時間になつたので、ぼくは明かりを消した。エルダットが起きて、明かりをつけた。ぼくは起き上がりつて明かりを消し、スイッチのそばから動かなかつた。——川崎健登

寝る時間になつたので、ぼくは明かりを消した。エルダットが起きて、明かりをつけた。ぼくは起き上がりつて明かりを消し、スイッチのそばから動かなかつた。——大津平七一萩野華凜

地球の資源は少なくなつてきている。そこで、太陽光などの自然を利用した新しいエネルギーが開発されたり、よりいっそく資源を節約する方法が考えられたりして、甲浦六九一山根未来

寝る時間になつたので、ぼくは明かりを消した。エルダットが起きて、明かりをつけた。ぼくは起き上がりつて明かりを消し、スイッチのそばから動かなかつた。——森光美羽

ついに、わたしたちはウナギがたまごを産む場所にたどり着くことができた。初めて調査に加わったときから、三十六年の年月が流れていました。——朝倉四七一大平彩詠

ついに、わたしたちはウナギがたまごを産む場所にたどり着くことができた。初めて調査に加わったときから、三十六年の年月が流れていました。——長岡四二・永尾真尋

井口愛心  
萩 那羽

山崎 杏華  
川崎 健登

萩野 華凜  
小川 紗良

堅田 菜耶  
弘田さやか

# 硬筆優秀作品

玉城  
ななみ  
陸 濱田

正木  
希実 上村さつき

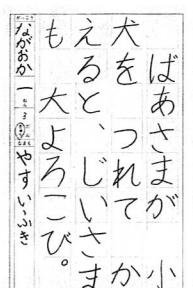
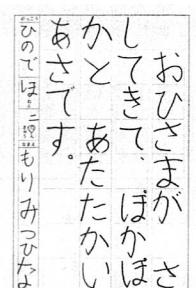
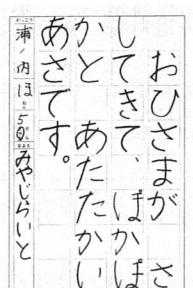
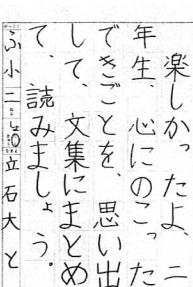
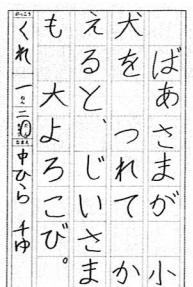
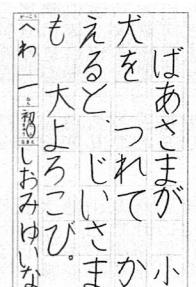
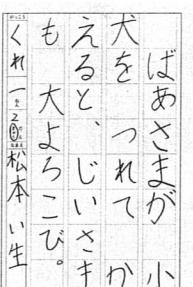
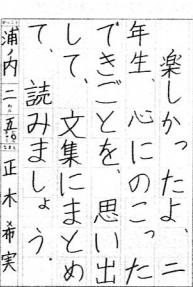
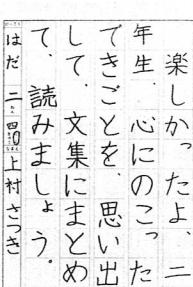
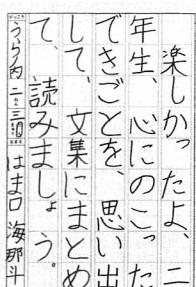
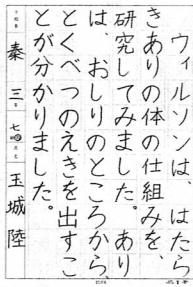
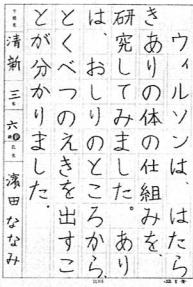
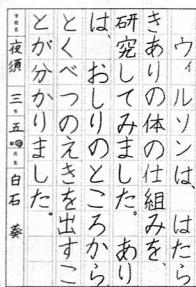
立石  
大と 中ひら千ゆ

やすいふき  
とだ さき

白石  
小野  
まい

はまく海那斗  
まつ本さあや

しおみゆいな  
松本  
い生



もりみづひな  
みやじらいと

第892回 競書成績

○印規定・随意共通昇級

条幅

卷之六

※江西澄翠  
※中城知抄  
※奥堂皓月  
※田村和子

★天位

★地位

※ 大原桂園  
※ 中城康華  
※ 山下枝雪  
大崎花梢

※武内美仁  
※山脇佳月  
※辻本里仙  
※須藤玲華  
※西山極山  
弘田賀峰  
河野美佑貴

★人位

※廣田香翠 岩村祥 武政幽雅  
川渕瑞容 宮本キン子 佐竹江月

岩谷紅花  
岡林邦心  
津野恵泉  
吉永光翠  
今井光翠  
笠原多嘉  
長町白水  
西村芳香  
野中恵花  
深瀬綠堂  
岡村和子  
森光望春  
中平美峰  
岩河里華  
西森幹子  
八木洋女  
岩崎竹山

西村眞理子	天野喜美子	岡田和翠	和田大紫	藤原朱鳳	大久保地初恵	大野美賀子	鎌倉春葉	松本正津	池芳春	岡田雄山	伊吹悠	中内桂香	笛岡幸章	市川芳享	氏原良享	田辺三翠	河村容谷	岡田吏惠	長尾尾子	岡田昭生	原桂春	演田千代
-------	-------	------	------	------	--------	-------	------	------	-----	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------

# 規 定

久窪新大山津々須山多山豊上久須久越越香香久越山旭窪旭池大須旭窪旭山  
札川田野桑南田ノ田中加礼南礼知知北北礼知田筆川筆川野南筆川筆田  
見 郷 見

西内仁子	原林桂春
平井邦春	綠翠
森光望春	
西村芳香	
片岡政徳	
河村容谷	
廣田香翠	
長町白水	
大石千代	
池原春芳	
山西春芳	
萩野津雨	
萩野羽花	
岡田雄山	
横山桂華	
中村里園	
奥崎躍雲	
田中恵風	
佐竹江月	
逸見翠雲	
田村和子	
芝田春琴	
吉田深美	
高橋芳秀	
佐竹雀園	
門田惠子	
高橋青龍	
高橋朱鳥	
中城知抄	
鶴田碧泉	

審査 森本 瓊象

旭須仁佐野香多仁大久佐窪旭仁高旭久東窪香仁  
筆筆崎淀川市北ノ淀野札川川筆 淀知筆札洋川北淀川  
川 郷川見 川

梅川 梅林  
桂龍 敬旭

出品票の名前は楷書ではっきり書いて下さい。

★出品票は黒枠をきちんと切つて下さい。  
★臨書は出典名を記入のこと。

(出品票)  
のり代  
31年  
5月  
条幅

臨書は出典名

★初段  
岩崎竹山上田雅子  
岡林翠中山澤英守  
岡本英子  
田村昭生  
久高橋志風  
高橋初代

審査 廣末 幽念

★ 一級

井上増水  
岡崎彩華  
上田夏海

★ 二級

吉永美知  
岡田節子  
小松照代

★ 三級

○ 大平圭子

★ 六級

○ 高橋園江  
高橋雄造



笛岡香苑氏



片岡政徳氏

準師範に認定していただき有難うございました。  
隅田先生や梅川先生をはじめ教室の皆様のお陰と感謝しております。  
今後共よろしく御指導お願い申し上げます。

雪消門外千山綠花  
發江邊二月晴

この度は準師範に認定していただき誠に有難うございます。

今回御指導していただいた北代先生のお陰だと思い、心より感謝申し上げます。  
(故)町田先生から習い始めて、(故)竹邑先生の手ほどきを受けて以来、田中幽峰先生にもお世話になり、本当にありがとうございます。  
又、久礼教室の皆様方の応援と励ましに心よりお礼申し上げます。  
今後ともご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

雪消門外千山綠花  
發江邊二月晴



山中紅風氏



萩野羽花氏

この度は、準師範に認定していただきありがとうございました。

これもひとえに、いつも温かく丁寧にご指導してくださる岡林邦心先生と小学生の頃から長きに渡りお世話になった故大城健堂先生のおかげと深く感謝しております。また、香北教室の皆様と楽しく和やかに書を学べたことが継続の力となりました。ありがとうございました。

まだまだ未熟でございますが、今後ともご指導のほど、よろしくお願ひいたします。

# 表徳齊聲於曾閔 是以貽則當世錫

この度平成最後の昇段試験で準師範の認定を頂き有りがとうございました。

御指導いただきました北代先生、又久礼教室の諸先生方に心より感謝申し上げます。  
今後とも御指導よろしくお願い致します。

雪消のふ千山綠丸  
菴に至ニ月晴

## 毛筆の部

中学校 三年

小船萌愛



この度は特待生に選んでいただきありがとうございました。

中学に進学してからは、勉学と部活動がある為、限られた時間の中での取り組みとなりましたが、努力の結果特待生という形で終われた事は、とても感慨深いものがあります。これからも「書」を私なりに楽しめたらと思っております。

最後に学びの機会とご指導賜った増井先生に心より感謝申し上げます

中学校 三年  
深瀬宏乃

## 硬筆の部

小学校 六年

井口愛心



今度は特待生に選んでもらいありがとうございました。  
六年間がんばってきたかいがありました。

これからも、きれいな字を書くよう心がけます。

小学校 六年  
尾崎道大

特待生にしていただきありがとうございます。  
市原先生の御指導のおかげで上達することができました。  
途中何度もくじけそうになつたこともありましたが、続けてきて本当によかったです。  
これからも上手な字が書けるように努力を積み重ねていきたいと思います。

この度は特待生に選んでいただきありがとうございます。一年生から硬筆を習い初めて字が上手く書けずあきらめたくなることもありますでしたが、今までやつてきて自分でも上手くなつたと、実感するようになつてきました。  
これからもていいに字を書いていきたいです。兄と姉を含わせて九年間、森本先生お世話になりました。森本先生、六年間指導してくださりありがとうございました。

# (新特待生紹介)



小学校 六年  
荻 那 羽

この度は、特待生に選んで頂きありがとうございます。チャンスは一度きりという超プレッシャーの中、同じ文を何度も書きました。自分が気に入らなかつたら何度も書き直し、手がいたくなりました。でも、こうして特待生に選ばれ今までの努力が報われたことを実感しました。今まで支えてくれた先生。これからもご指導よろしくおねがいします。次は毛筆の特待生を目指しがんばついていきたいです。



小学校 六年  
中 村 心 香

この度は特待生に選んでいただきありがとうございました。小学一年生のころ友達にさそわれたのがきっかけで、硬筆を始めました。友達は一つ上の先輩だったので先に特待生になり、私はその友達をおいかげ、特待生を目指していました。今回特待生になり、友達と同じ場所に立てる事が、すごくうれしかつたです。これからもていねいな字を書けるように練習を重ねたいです。



小学校 六年  
中 平 彩 心

この度は特待生に選んでいただき、ありがとうございます。私は、保育園のころからこう筆を習いはじめました。時にはこう筆からはなれようかと考えたこともありました。今こうしてぶり返つて、続けてよかつたと思いました。こう筆を続けたことは私の力となり、ふだんの生活にもいきるような大きな活力になつたと思っています。本当にありがとうございました。これからも色々な場面でいかしていきたいと思います。



小学校 六年  
濱 田 あおい

この度は、特待生に選んでいただきありがとうございます。私は幼稚園の頃に硬筆を始めました。始めたきっかけは、おばあちゃんが硬筆の先生をしていましたからです。おばあちゃんは厳しくて、つらい時もあったけれど八年間続けていたおかげで字がキレイになりました。おばあちゃんありがとうございました。これからは習った事を継続していきたいです。

# (新特待生紹介)



小学校 六年  
濱 田 麻 彩

この度は特待生に選んで頂きました。六年生最後の試験で特待生になれて嬉しいです。  
私はひらがなの「か」の字が苦手だったので、今回の課題はとても苦労しました。しかし、練習を重ねていく内に、なんとかできました。  
これから中学生になつて忙しくなりますが、硬筆で習つた事を忘れず、字をていねいに書いていきたいと思います。



小学校  
毛 利 彪 史

この度は特待生に選んで頂きました。六年生最後の試験で特待生になれて嬉しいです。  
小さい頃は綺麗に書けなかつた字が、硬筆を習いだししてから、綺麗に書けるようになりました。中学校でも綺麗な字を書くことを心がけていきたいと思います。



小学校 五年  
竹 村 瑞 菜

この度は、特待生に選んでいただきありがとうございます。  
この字を将来にいかしていきたいと思います。  
毛筆も特待生になれるようにがんばりたいです。



小学校  
田 中 琴 子

この度は、特待生に選んでいただきありがとうございます。  
私は保育園の年長から硬筆を習い始め、うまく書けなくて何度もやめようと思いましたが、やめずに続けてきた甲斐があつたと思いました。  
これからも、硬筆、毛筆ともに、ていねいに書き続けていきたいです。

## 第62回 龍跳書道展

会期 7月9日～7月14日

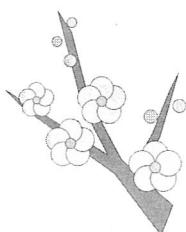
7月8日(月)搬入予定

※下見会 4月21日(日)・5月26日(日)

審査会終了後

※今年の第六十二回龍跳書道展は、七月九日開幕の予定です。

については、四月～五月審査会終了後に下見会を実施したいと思いますので出品予定の皆様、早目に取り掛かって下さい。



### 三一 墨色

墨は作品の効果を左右する最も重要な要素の一つであり、作品を作ろうとする者が無関心ではいられない文房具です。俗に「墨に五彩あり」といわれるよう、墨の色は黒一色ではなく、微妙な色あいを持っています。墨はその材料や職人の技術と個性、保存の具合、磨墨の方法、硯・紙との調和などの条件によって墨色やにじみ具合が異なります。運筆の遅速や筆圧の強弱、墨量の多少によつても変化し、同一の墨を用いても書く人によつて違います。

墨色は作品の表現効果の一面として把握すべきもので、特定の墨が高価で良質であるからといって、どの作品にも適した墨色であるとは限りません。作家が目差している表現を側面から支えている色彩や濃淡・潤渴、さらには一本の線に盛りこむ墨量によつてできる厚みなどの効果を総合したものが広義の墨色だと考えられます。美しい表現を墨の効果に求めることは大切なことです、そのあまり書の表現が墨の効果に溺れて装飾性に頼り、情感だけの脆弱なものに陥つてしまふ危険性もあります。

作家の中では墨に工夫をして意図的に墨色を変化させている人もいるようです。墨液に卵白を磨り込

むとのびがよいとか、中国では春聯を書く時などに氷砂糖を溶かして混ぜると艶がよくでるとか、故意に宿墨にして使うにじみがおもしろいといったような話を聞いたこともあります。市販の墨液を用いる人のなかには水と磨墨した墨を配合することによって墨液特有の荒いにじみを解消している人もいます。品質や書かれた作品の保存性という点ではまだ未解決の問題がありますが、現在急速に改良の進んでいる市販の墨液や練り墨は好みの濃さの墨汁が大量に得られ、制作にはすごく便利です。一般的に仮名や行草書を書く作家は、作品の性質上情緒的な表現を追求することが多く、微妙な墨色が必要なのであまり使わないようですが、楷書や篆隸をよくする作家は、構築性のある表現をくつきりした墨の冴えた墨液を求める傾向があるようです。また一字か二字の少字数を書くことを専門とする作家の多くは使いかたに随分工夫をしているようです。書道用品店には実に多様の液体墨や練り墨が並んでいます。店の人やメーカーの人に自分の制作意図をよく伝え、合ったものを教えてもらつたり、経験の豊かな先輩の指導をうけて選ぶといでしよう。

(株)一玄社より)

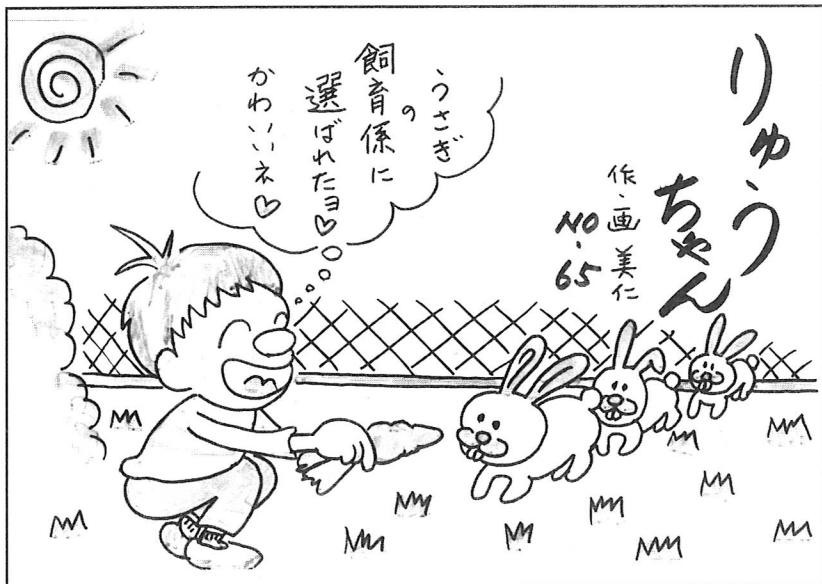
お知らせ

第39回 県女流展

(高新記載順)

入選

小松 中山 江前 堅  
川下 平下 西田 田  
理紫 美枝 澄秀 清  
香香 峰雪 翠華 園



## 連絡・問い合わせ・送り先等

新規入会申込と会費の送金先

「龍跳誌」冊数変更の通知先

〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎一三三一一一

隅田亘心

龍跳書道会

振替口座番号

01690-3-31925

電話(0八八九)三五一〇九七一一番

月例作品の送り先

〒783-0081

南国市片山四九〇

西山極山

電話(0八八八)八六五一八八五七番

「龍跳誌」の内容について

〒781-6410

安芸郡田野町一四五六一九

廣末幽念

電話(0八八七)三八一五二一〇八番

編集についての連絡先

〒785-0010

須崎市鍛治町六一八

江西澄翠

電話(0八八九)四二一三一〇六七番

・送本についての連絡先  
(冊数の相違等については当方へご連絡下さい。)

〒785-0055 須崎市大谷二〇四

野中恵花

電話(0八八九)四七一〇七一一番

## あとがき

春、三月、今年は雨が多いですね。卒業式シリーズ  
ン、親子の微笑ましい姿が見られます。

昇段試験も皆様の協力で無事に終えることが出来ました。お疲れさまでした。昇格された方、現状維持の方と結果が分かれてしまいました。あるテレビの番組のように降格というようなことはありません。どちらも、今後は毎月の競書に励んでもらいたい次の昇試に備えていいでほしいです。私も昔、昇段試験の後の宴会で多くの先生方に「今日はどうやつたぞね、ほうか、いかだつたかネ。まあ次頑張りや」と一献、苦い酒を戴いたものでした。酔いもどこへやら、何度経験したことか……恥ずかしい話を披露しました。

○7月龍跳展が控えています、もう取り掛かっている方もおられると思います。4月、5月に下見会を予定しています。

○20日第18回高知連合選抜書展の会があり、龍跳も26名参加となりました。選出された方、よろしくお願ひします。

月例競書課題

月例作品送り先	保育	部別		締切日		月例競書課題												
		一般	半紙規定	五月二十日締切	六月二十日締切													
〒783 0081 南国市片山四九〇 西山極山 宛	保育	一年	二年	三年	四年	五年	小学六年	一年	二年	二年	三年	一般条幅	半紙隨意	薄暮空潭曲	任意	任意	五月二十日締切	六月二十日締切
	こ	お	水	そよ風	書き取り	羊毛の筆	世界紀行	緑の街路樹	任	意	任	安禪制毒龍	任意	任意	五月二十日締切	六月二十日締切		
	え	と	音	わかな葉	乗り合い	色の調和	学校放送	土手の涼風	任	意	任	安禪制毒龍	任意	任意	五月二十日締切	六月二十日締切		
	か	こ	父	わか葉	乗り合い	色の調和	学校放送	土手の涼風	任	意	任	安禪制毒龍	任意	任意	五月二十日締切	六月二十日締切		
	さ	い	母															

会費の送金について

会費：半年分 3,000円／1年分 6,000円

1ヶ月の龍跳誌郵送料

(幸便搬送の方は手料不要)

11冊以上は次の計算による。(1ヶ月分)

Ⓐ	1冊～3冊	80円
Ⓑ	4冊～8冊	150円
Ⓒ	9冊・10冊	210円

$$\begin{aligned} \text{Ⓐ} & 12冊 \quad \text{Ⓐ} + \text{Ⓐ} = 290\text{円} \times \text{月数} \\ \text{Ⓑ} & 17冊 \quad \text{Ⓑ} + \text{Ⓑ} = 360\text{円} \times \text{ヶ月} \\ \text{Ⓒ} & 30冊 \quad \text{Ⓒ} \times 3 = 630\text{円} \times \text{ヶ月} \end{aligned}$$

◎会費と龍跳誌手料は原則として半年分または1年分前納のこと。

◎送金は次の何れかへ • 〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1 隅田亘心  
• 振替口座番号 01690-3-31925 龍跳書道会  
(お問い合わせ) ☎ 0889-35-0971

○月号(○冊)より○月号まで○ヶ月分  
誌代 ○円 / 手料 ○円

と記入のこと。

印刷所	発行所	発行人	中	江	前	野	北	廣	集室
(有) 笹岡印刷所 須崎市東古市町二一六 電話(088)四二一〇二四四	龍跳書道会 電話(088)三八一五二〇八	廣末幽念(本部) 安芸郡田野町一四五六一二九 電話(088)三八一五二〇八	平 美 峰	江西 澄翠	田 秀 華	桂 山	代 碧 山	末 幽 念	廣 末 幽 念